4月
2025年
166号

地域共創・未来共創の大学へ

広報 沖縄大学 OKINAWA UNIVERSITY

発行
沖縄大学経営企画室
〒902-8521 沖縄県那覇市字国場555
☎ 098(832)2910
http://www.okinawa-u.ac.jp

2025年度 私は challenge（チャレンジ）します！

新年度、みんながチャレンジしたいことをききました！

硬式野球部キャプテン
知念 新さん（福祉文化学科４年）

チームは「一体感」をテーマに自主性を重んじて、いま何をすべきかを考えて取り組んでいます。６月の全国大会出場を目指して3月末からの県内の試合がんばります。
社会人になっても野球を続けたいので、野球観などを身に着け、通用する人間になりたいです。

男子バスケットボール部キャプテン
久保 海翔さん
（経法商学科４年）

昨年は怪我に悔しい思いをしたので、自分の身体を鍛え直し、この一年は後悔しないようにやりきりたいです。就職活動は営業職に就けるように頑張ります。

バスケ部は 2025 年度1部昇格を目指してがんばります！

「大学バスケ、ラストの一年。試合経験豊富な４年生7人がチームを引っ張り頑張っています。そこがチームの強み、どこにも負けない強さだと思っています。」

男子バスケットボール部キャプテン
國吉 啓さん（経法商学科４年）

３年次までに単位も取り終えているので、今年はバスケに時間を使い一番良い結果を出したいです。"バスケットに関する仕事をしたい"、起業を視野にチャレンジ中です。

⬅ P2 につづく

泉水 ほのかさん
（こども文化学科2年）

２年次は教職インターンシップも週に1回あるので忙しくなりますが、まずは成績をアップできるように学業に頑張りたいです。“なぎなた”は結果というよりも自分らしくのびのびと、好きななぎなたがやれたらと思っています。それと、指導者としてもスキルをあげて取り組みたいです。部員が増えると嬉しいです。なぎなた部（今は一人なのですが）、２人になれば演技の部でも出場できるので、興味があるかた、是非入部してください！

徳原 ひかるさん
（福祉文化学科４年）

４年次になるので就職活動と社会福祉士国家試験の勉強を頑張りたいです。将来のキャリアに向けて実力を養い、目標を達成できるよう全力で取り組んでいきたいと思います。
ボランティアサークルゐ～ま～る部員募集中です。

嘉数 花純さん
（福祉文化学科４年）

一人暮らしや国家試験勉強が始まります。新しいことを沢山始め、大変なことも多いと思いますが、少しずつ自立を目指し、家事や勉学、サークルやアルバイトの両立ができるように頑張ります！

クッキングサークルに入りたいかたはこちらまで連絡くださいね！ n23061@okinawa-u.ac.jp（仲程まで）

崎間 一華さん
（管理栄養学科3年）
生活リズムを整えます！

登野城 はなさん
（管理栄養学科２年）
家で朝ご飯を食べる（いつも早く来て学校で食べてるので）を頑張ります。

仲程 彩智さん
（管理栄養学科3年）
学業、サークル、アルバイトの両立を目指して頑張りたいです。

上原 鈴さん
（国際コミュニケーション学科４年）
就活頑張ります！

～祝春～サクラサブレ

今年もクッキングサークルのメンバーが考案したオリジナルレシピで製作されたお菓子が入学式で配布されます。今年のこだわりはピンク！桜や春を感じられる逸品に仕上がりました。またこれから始まる新入生たちの大学生活が充実した時間になりますようにと願いを込め、大学から近い開運スポット（沖宮）で祈願もしてきましたよ！（3月10日の最強開運日にお参りしました！）新入生のみなさん、先輩たちが心を込めて製作した焼き菓子を食べて、沖縄大学での学生生活、ｅｎｊｏｙしてください。

嘉数 きよらさん
（福祉文化学科・2025年３月卒業）
これまで学校や福祉分野について学びを深めてきたので、卒業して新社会人になる今年度はいろいろな経験をする一年にしたいです。興味がある分野にチャレンジ！

大湾 南緒さん
（福祉文化学科・2025年３月卒業）
大学４年間でスクールソーシャルワーカー、社会福祉士の資格を取得したので、社会人になる今年度は、多岐にわたる分野でボランティア活動にがんばりたいです！

着任にあたっての抱負

経法商学科
岩﨑 一郎 教授

はいさい！経法商学部に特任教員として着任した岩﨑です。沖縄へ来る前は、東京の一橋大学経済研究所で、20年間以上ロシア東欧経済や世界経済の研究をしてきました。また、研究者になる前は、外交官として英国やロシア（前ソ連邦）で勤務しました。沖縄大学では、世界の様々な問題や課題を、教員や学生の皆さんと一緒に考えていきたいと思います。講義は、国際経済学、西洋経済史、経済統計学を担当します。趣味はウォーキングとサイクリングです。離島を含めて、沖縄の隅々を、徒歩や自転車で見て回りたいと思います。どうぞよろしく！

経法商学科
平木 健太郎 講師

はじめまして、平木健太郎と申します。
福岡県出身で、大学卒業まで福岡市内で過ごしました。卒業後は地元の信用金庫に約５年間勤務し、その後、再び学びを深めるため京都大学大学院へ進学しました。食べることが大好きで、沖縄大学への着任を機に、沖縄グルメについてもどんどん探求したいと考えています。大学近くの美味しいお店を教えてください。講義では主に労働法を担当しており、就職活動に関するご相談にも対応可能です。皆さまとお会いできることを楽しみにしております。

国際コミュニケーション学科
マイヤーホーフ サミュール アンドリュー 准教授

It is my earnest hope that Okinawa people will be able to learn English that they can put to use in both their personal and professional lives. As an instructor, I hope to impart skills to help students do just that.
I would say I am motivated to make classes enjoyable, yet challenging.
A secondary motivation is culture. By explaining about one's culture in English to foreigners, young Okinawa people can take pride in their roots. At the same time, young people from different cultures can learn from each other as they engage in meaningful exhanges.
Ichiriba Chode! "Every time you meet someone, they become your brother or sister".

福祉文化学科
稲井 勇仁 講師

今年度より、福祉文化学科 健康スポーツ福祉専攻に着任しました稲井勇仁（いない ゆうと）と申します。新たな環境で、教育・研究・社会貢献に取り組めることを大変嬉しく思っております。担当科目は「体力測定評価演習」や「体力トレーニング演習」など、健康スポーツ福祉に関するものです。これまで、トライアスロン競技やコンディショニングを中心に、競技力向上や安全対策に関する研究を行ってきました。「健康」「スポーツ」「福祉」の分野で活躍できるプロフェッショナルの育成に貢献できるよう、全力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

福祉文化学科
宮城 直子 助教

はじめまして。2025年４月付で着任しました宮城直子と申します。人文学部福祉文化学科でソーシャルワーク実習指導を担当致します。よろしくお願い致します。
私は現在、研究の面では戦後沖縄の社会事業（ソーシャルワーク）に関する史的研究をしておりますが、社会福祉実践ではケアマネジャー等、主に高齢者福祉に携わってきました。研究、そしてこれまでの実践経験を活かしながら、学生の皆さんにソーシャルワーク実践のやりがいや奥深さを感じてもらえるよう授業の創意工夫に努めて参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

福祉文化学科
照谷 明日香 助教

この度、福祉文化学科に着任いたしました照谷明日香と申します。
大学卒業後、福祉現場では地域福祉、特に障がい児・者に関わる職に就いていました。大学院進学で社会福祉学を学び、その後コロナ渦に入った年から地元沖縄に戻り、非常勤講師として、沖縄大学の学生と関わることになりました。暗い世の中でも学生の発想力の豊かさや逞しく生きる力に感動することが多々ありました。魅力あふれる沖縄大学の学生が地域と共に成長し、未来を担う人材としての力を身につける過程で、一緒に考え、学ぶことができればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

興味関心を深堀り！

2024年度 琉球弧研究支援プロジェクト

琉球弧研究支援プロジェクトは、琉球弧（沖縄本島・離島・奄美含む）をフィールドとした研究・実践活動を行う学生に研究助成費（旅費や図書資料費等）を支給して、学生の挑戦を支援する沖縄大学ならではの取り組みです。2008年からスタートした研究支援プロジェクトは昨年度で17回目となり、個人研究の部に3件、グループ研究の部に7件が採択されました。

研究成果報告会が2月14日に開催され、学生たちは、「戦争で変化した食文化」や「沖縄そばの歴史と継承」、「沖縄県でハンセン病と闘う人たち」、「沖縄の青少年における貧困と非行・暴力の関わりについて」、「小学生の学びと遊びに関する意識の比較調査研究」など多岐にわたる発表をしました。中でも琉球芸能に携わっている4年次の仲間功也さんと亀山飛龍さんは3年間琉球弧研究に取り組み（1年目は藍染、2年目は花笠、そして今年度は紅型について）、舞台衣装や小道具といった琉球工芸の職人さんからお話を伺い、自らも制作に関わるなどの活動から、踊りや三線を通して舞台での表現方法に深みが増してきたとの実践報告もありました。

亀山飛龍さん・仲間功也さん

3年間の琉球弧研究を振り返って「私（仲間）が琉球舞踊を、亀山が三線に携わっていることから自分たちが纏うものについて琉球紅型衣装を作る技術者の想いを知り、自分たちが演じることでどのように継承していけるか、表現の深みを増すことにつなげたいとの動機からでした。3年間の研究を通して、伝統文化の大切さをとても理解できたと感じています。琉球弧研究支援は他大学にはない沖縄大学の取り組みで、とても良い制度だと感じています。2年次の頃から3年間取り組み、とても楽しかったです。琉舞や三線は無形文化財ですが、小道具や衣装など有形文化財で沖縄は染、織の宝庫、高い技術があるので、私は踊りを通して、それらの魅力を伝え、守り続けていきたいと思っています。」と話してくれました。

亀山さんは、宮古・多良間村出身で多良間の8月踊りについての探求のため、高校は南風原高校に進学しました。芸能だけでは食べてはいけないからと、大学では法律や行政のことを学びたいと沖縄大学に進み、仲間さんと舞台を共にする機会や琉球弧研究を行い、充実した4年間だったと振り返ります。仲間さんは金武町出身で幼いころから三線や太鼓、琴などの芸能に触れ、中学生の頃に世舞琉の門下生となり、現在は組踊を学ぶため7期組踊研究生として活動をしています。今後は沖縄県立芸術大学の大学院に進学し、より琉球舞踊について研究をしたいと抱負を語ってくれました。今後の二人の活躍に期待大です。

城間びんがた工房を訪問

16代目城間栄市さん、あずきさんにインタビューを行い、300年もの間、制作工程が変わらないことや、着る人の幸せを願い「祈り」が形になったものであるとの話を伺いました。15代目の栄順さんは91歳。工房では道具が大事だと手作りの道具づくりも欠かせません。紅型を通じて琉球文化を伝えていけるよう、「願い」と「想い」を込め誠実に向き合う城間さんたちの想いを伺い伝統芸能の本質、重要さ、奥深さを改めて確認した研究となりました。

琉球史に名を遺す人物たちに、新たな光を

経法商学科前田舟子教授が執筆者の一人として参加した、姜尚中総監修・東洋史研究の集大成『アジア人物史』(全12巻)が、「アジア・ブックアワード2024」の年間最優秀図書賞（人文科学・学術部門）を受賞しました。

集英社創立95周年記念企画として刊行した『アジア人物史』は、アジアと名指される広大な地域の歴史人物に光を当て、総勢10,000名にいたる登場人物たちの軌跡を追った画期的なシリーズで、178人の研究者たちの壮大な夢とロマンが詰まった本となっています。

前田先生は第6巻第4章「古琉球の興亡―中華世界との交流を中心に―」の中で、尚巴志、尚泰久、尚真、鄭迥を取り上げ、第8巻の第1章「琉球王国の新時代」の中で、羽地朝秀、程順則、蔡温、徐葆光を取り上げています。前田先生の歴史愛溢れる豊かな文章は、琉球史の可能性を多くの読者に伝えるものとなっています。

今回は『アジア人物史』編集長の落合勝人さん、前田先生の担当者の山崎春蘭さんとともに、琉球史の魅力についてお話を伺いました。

本格的アジア通史、出版の企画意図

落合 私は、2007年の秋以来、東アジア出版会議に参加しはじめ、日中韓の3か国に香港、台湾、沖縄、あわせて6地域の出版人と親睦を重ねてきました。彼らとの交流をきっかけに、近隣諸国の読書人と共有可能な本を手掛けたいという夢が膨らみました。翻訳のしやすさを考慮し、評伝を基礎単位とする基本方針は、この経験を抜きにしてはあり得ませんでした。『アジア人物史』のプロジェクトは2016年にほぼ骨格が固まり、その時点ですでに沖縄の人物を大事に扱おうと、自分の中では決めていました。何といっても本書を貫くキーワードは〝交流〟です。沖縄では琉球王国時代から交流を重視して国が成ってきた歴史があります。今回のシリーズ中、沖縄の章を4つも設けたのも、単なるひいき目ではありません。前田先生には、初回配本の2冊中、第8巻の最初の章を執筆していただきました。これも、沖縄が入口というのがよいと思ってのことです。付言すれば、最後の第12巻の末尾は、比屋根照夫先生が執筆を担当した大田昌秀を主人公とした章です。歴史学の中に大田昌秀を位置づけたのは、画期的な業績ではないかと密かに自負しています。

前田 他の執筆担当の先生からは、琉球というポジションをアジアの中心に据えることで、日本の多様性も広がるというコメントをいただきました。

落合 沖縄は、アジア全史のなかでも、いわば最前線のポジションにあると考えます。今回の企画には、ボーダーラインに焦点を当てるという隠れた主題があります。境界線を、越境する、交流する。時に激しい衝突も生じることもあるけど、平和への努力や、文化交流がもたらす喜びなどが交錯した場。そのフレームを通した歴史を可視化したいですし、これからも考えていきたいです。その意味でも、沖縄が入口というのは、運命的にも見えますね。

前田先生に依頼された理由（経緯）について

落合 近現代史は琉球大学名誉教授の比屋根照夫先生にお願いしましたが、もう一人の著者は、なるべく若い研究者がいい。しかも、沖縄で生まれ育った研究者にお願いしたいと考えていました。そこで、一次史料に通暁し、国際的な視野をもっている前田先生を知り、ぜひとも執筆してもらいたいと思いました。前田先生は、何と言っても語学力に秀でています。つまり、多言語に通じている――中国語、朝鮮語、満洲語の文献を自在に読みこなせるのです。古琉球の研究は、いくつかの言語ができないと難しいと思います。当時の一次文献に丁寧にあたっている沖縄学の研究者は、実はそれほどいません。前田先生はその一番大事なところができる方です。最初、前田先生は尻込みされて、「なぜ私に?」とおっしゃっていたのですが、中華世界に関する知識が豊富で、土地勘もあり、研究の業績などを鑑みても、今回の企画と相性が良いのは一目瞭然でした。

前田 本については、変遷や誰をとりあげるかについて、集英社の編集室にこもって話し合ったりもしましたね。

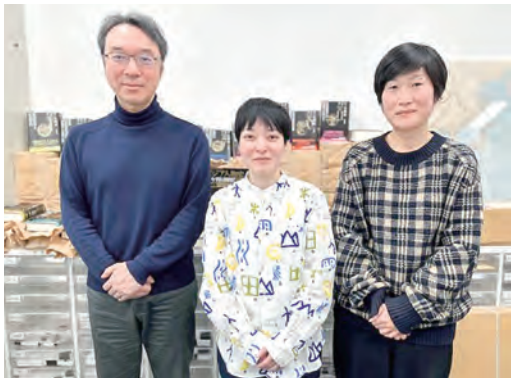
落合 最初は女性をターゲットにとも話していましたね。

前田 聞得大君についても触れようかとも考えたのですが、まずは王国の女性の地位改革を行った尚真王について触れないといけないと思いました。

落合 結果的に、前田先生の解釈により、斬新で、オリジナリティのある内容になったと感謝しています。

琉球史の魅力について

落合 琉球史は、何といっても歴史が身近にあるのが面白いですよね。史料に直に触れることができる。とにかく、自分の一族の来し方が近くにあり、歴史の面白さが体感できるのが魅力かと思います。祝賀会で前田先生が「戦争があり史料等が焼けてしまった。それらを発見し、整理するのが歴史家の使命」とお話しされました。最近の歴史はグローバルヒストリーといえば聞こえがいいけど、どこか抽象的なものになっている。それに反して、人物史というのは、人間が生きて、具体的に何を行い、どういう偶然が重なってこういう結末を迎えたのかが無理なく描ける。そこが面白いですよね。以前、前田先生の授業の一端を拝見して、とても感動しました。「家譜」を間に挟んでゼミ生と談笑しながら、琉球史の魅力を自然に伝えていらっしゃる。そのような授業が受講できて、沖縄大学の学生の方々が羨ましくなりました。こうした歴史との触れ方は、沖縄でしかありえませんよね。琉球史は沖縄の人自



左から　落合 勝人さん　前田 舟子教授　山崎 春蘭さん

身の手で、これからも築きあげていくものだと考えています。

山崎 言うまでもなく、琉球は当時のアジア世界における交易・交流のハブとしても非常に密度の濃い歴史がありますよね。とりわけ目を引いたのは琉球史における華人の存在です。単に両国の間を外交的に行き来していたのかと思いきや、その一部は土着化して久米村のような華人コミュニティを築きつつ、着実に琉球王国の文化形成の一端を担うような存在になっていったことがわかります。まさに内／外の区別までもが解体していくかのようなダイナミズムがここにはあるように思いました。琉球史を通じて、外側から俯瞰的に見ていたのでは捉えられない沖縄の文化的背景を知る過程は、私自身にとっても驚きと発見の連続でした。

落合 「アーリー・モダン」を主題にした第8巻に前田先生の原稿があるのはとても意義深いことだと思います。沖縄の人は想像を絶する努力を積み重ねて、他地域に比しても全く遜色がないレベルで、近世の政治行政体制を構築しました。そうした具体的な過程が、よく見えてきます。しかも、次の時代の準備を着実にしてきた描写があるだけに、琉球処分がいかに無残な出来事だったか、というのが見えてきますよね。

前田先生の研究への期待について

山崎 琉球史研究を牽引していく若手研究者として、前田先生にはとても期待しているのはもちろんのこと、持ち前の語学力を駆使して常より活発に東アジア地域の知的交流を続けてこられた方として、尊敬の念を持って拝見しています。歴史を通して、東アジア世界を相対化させることもできる先生の研究には大きな可能性を感じますね。

落合 前田舟子先生には、琉球史について、ぜひとも単著で1冊書いてほしいですね。偉大な琉球史の先輩はいらっしゃるかと思いますが、戦後の沖縄の史料再生に地道に取り組んでこられた蓄積を生かし、中国語や満州語、朝鮮語などの文献も見据えながら、新しい琉球史を書ける方だと思います。このまま歴史に対して堅実にアプローチし続け、大きな琉球史を描いてほしいと期待しています。それは、前田先生にしかできないと確信しています。

（台湾の聯經出版社が中国語訳を行い、順次刊行、2026年度に全12巻が出揃う予定です。）

『自然の民族知識を集約 伊波普猷賞受賞』

こども文化学科 盛口 満 教授

2月12日、沖縄タイムス学術・出版三賞の贈呈式が那覇市で開催され、沖縄の文化や学術振興に関する優れた研究や著作に贈られる第52回伊波普猷賞に本学こども文化学科の盛口満教授が受賞しました。

盛口先生は、「これまでとりあげられなかった沖縄の自然と人の暮らしや文化、生物の多様性の分野など理科系の民俗学に光があてられたことが嬉しい」と喜びを語りました。

本学体育会『UNIVAS AWARDS 2024-25』優秀賞を受賞

3月3日、大学スポーツの振興を支えた運動部学生や団体を賞する『UNIVAS AWARDS 2024-25』の表彰式が東京で開催され、本学体育会が 運動部学生に対する学業充実・キャリア形成支援に関する先進的な取組部門で優秀賞を受賞しました。これは全国226大学が加盟しているUNIVAS団体の中から選考、本学は体育会による入学前教育・キャリア支援講座が評価されました。本学では体育会強化競技部の1年生を対象に、入学までの継続的な学習機会の確保を目的として入学前課題を実施し、入学後の初年次教育を目的に「キャリア支援講座」を開講しています。また、スポーツをするうえで必要となる講座なども定期的に受講するシステムを画一しています。

また、体育会は地域貢献活動にも取り組んでいます。2月4日、沖縄大学体育会所属の学生90名と指導者、総勢100人で国場地域の清掃活動を行いました。

講座風景

清掃活動

この春卒業した先輩たちに、就職活動について振り返っていただきました。自分の夢を叶えるため奮闘したそれぞれの就職活動、そのなかにはきっとあなたの心に刺さるヒントがあるはずです！

先輩が教える！ 就職術

Report.1

仲程 太陽 さん

福祉文化学科［那覇西高校出身／沖縄ヤクルト］

≫大学進学時の目標は

体育の教員を目指して進学しました。

≫就職活動を振り返って

3 年生の 2 月から就職活動をはじめました（遅かったかも…）。
それまでは教職を目指していました。陸上競技を続けたくて社会人になっても働きながらできるようにと職業選択をしました。

≫就職活動で大事なこと

企業の比較、分析は大切です。面接のときになぜこの企業を志望したのか、そこでどう自分の強みをアピールできるか、いろいろな会社を知ることが大切です。そして他社と違うことをＰＲすることを大事にしました。
早い時期から就職活動に取り組んだほうがいいかと思います。

≫就職活動を振り返って

ヤクルトの人事のかたにはエントリーシートを見てアドバイスを頂いたり、サポートしていただきました。
短期集中となった 3 か月の就職活動は、良い経験でした。とても楽しめました。

≫目標

ヤクルトの商品について、きちんとＰＲできる営業マンになりたいです。

Report.2

嶺井 真実 さん

管理栄養学科
［具志川高校出身／株式会社シダックス（ハートライフ病院勤務予定）］

≫大学進学時の目標は

両親が食堂を経営していたこともあり、“ 食 ” に関わる仕事に魅かれて進路決定ギリギリに管理栄養士について学びたいと沖縄大学に進学しました。授業の中で病院食の献立を考え大量調理する実習を経験、患者さんの病気を理解して患者さんのために働ける病院勤務の管理栄養士を目指すようになりました。

≫就職活動を振り返って

3 年生の春休みから就職活動をはじめましたが、先輩から情報を得る機会が少なかったので不安が多く、少しでも早くはじめなきゃと焦りがありました。企業分析をした結果、シダックスに就職したいなと決めて、就職支援課にサポートしてもらい面接対策などを行いました。

≫大事なこと

とにかく明るく、自分のことを知ってもらえること、面接練習をたくさんすることが大事です。

≫アドバイス

管理栄養士の就職先は情報が出るのが遅い企業（病院）もあるので、焦らずに自分が本当に行きたいと思う就職先をみつけて活動してほしいです。

≫目標

まずは、仕事を覚えて、信頼される人になりたいと思います。またスポーツ栄養士の勉強もしていきたいです。

Report.3

大城 盛竜 さん

福祉文化学科［首里高校出身／南城市役所］

≫大学進学時の目標は

高校時代はこども文化学科と福祉文化学科の併願で沖縄大学を受験。こども文化は不合格だったので福祉に進みました。答えが理系のようにあるわけではない、言語化が難しい福祉の学びに魅力を感じて、次第に学校現場に関わる福祉を学びたく社会福祉士とスクールソーシャルワーカーの資格取得に励みました。

≫就職活動を振り返って

4 年生の 4 月から就職活動をはじめて、大学が提供している LEC の公務員講座を前期から受けました。
9 月の福祉の就職セミナーに参加し、いくつかの施設を見学し情報を得ました。ネットでというより直接訪問しました。

≫大事なこと

職場見学に積極的にいくべきです。ネットで調べられる時代だけれど空気感など特に福祉の場合は実際に見るのは大切だと思います。

≫アドバイス

3 年生には、「あまり慌てないでよいです。」と伝えたいです。
就職活動中って不安になることばかりです。一番は国家試験が大事なのでそこに向けて頑張ってください。
1･2 年生には、公務員試験講座をはやめに受講することを勧めます。福祉文化は、経法商のように単位にはなりませんが、年に数コマ受講しておけば役に立つと思います。

≫目標

福祉の勉強で一番印象に残っているのは「傾聴」話を聞く力。市民の困りごとや複雑な悩みにも寄り添っていけたらと考えています。

大城 すずか さん　Report.5

経法商学科［那覇西高校出身／社会医療法人友愛会（総合職）］

≫大学進学時の目標は

沖縄大学は経済や法律など幅広く学べて、好きなものが４年間でみつけられるのではないかと魅力を感じて進学しました。簿記や経営、組織行動論などを学びファイナンシャルプランナー、パソコン検定、秘書検定などの取得に励みました。

≫就職活動を振り返って

楽しかった！という言葉につきます。グループディスカッションは緊張もなく人の意見を聞くこともできてとても勉強になりました。
いろいろな業種を受けて、自分がやりたいことが見えてきました。姉が看護師をしているので患者さんの支援をする人の支えになりたいと、病院の総合職に決めました。

≫大事なこと

ポジティブ思考が大事！です。もし面接のときにうまくいかなくても、縁がなかったと割り切り、ポジティブマインドでいることが良いのではないかなと思います。
笑顔で明るい自分を PR すること、それを一番にと努めました。

≫アドバイス

４年間じっくり考えながら、夢を探してもいいと思います。そのために検定などたくさん取得してみてください。そこから自分が楽しいと思える勉強や分野がみつかるので、それから将来の幅を広げていっても良いと思います。

≫目標

人事や経理、広報、すべてに責任をもって丁寧に仕事していきたいです！

大城 千佳 さん　Report.7

こども文化学科［普天間高校出身／沖縄県学校事務］

≫大学進学時の目標は

入学時は教員を目指していましたが、実際に教育現場をみて、熱心な教員の方々を支える学校事務を志望するようになりました。

≫就職活動を振り返って

こども文化学科は就職活動をする人が少ないので就職支援課に面接指導をお願いしたり、公務員関連の講座を受講したりしました。１冊の過去問を繰り返し解きました。

≫就職活動で大事なこと

自分がやりたいことをみつけて調べ、研究することが大事です。公務員を目指すなら１年のときから勉強をしておくことがよいです。数学や国語の読解問題などいろいろな職種に共通する科目は早い時期から取り組んでください。

≫アドバイス

１～２年の間にいろいろなものに挑戦してください。２年次にこども文化学科のイベント「学校ごっこ」を運営する側で参加したことは学校事務に携わるにあたって活きてくるのではないかと思っています。

≫目標

学校教育全体を支える一人になりたいと思っています。

屋宜 優花 さん　Report.4

国際コミュニケーション学科［球陽高校出身／財務省沖縄地区税関］

≫大学進学時の目標は

もともと海外青年協力隊に憧れていました。外国の人と関わる仕事がしたい、国際交流を学びたいと思ったので沖縄大学に進学を決めました。中国語と英語を武器に仕事ができたらと大学４年間では学びを深めました。

≫就職活動を振り返って

公務員に絞ったので、３年生の６月に公務員試験対策の塾（TAC）に入り、気が狂うかと思うほど、勉強をしました。（すきま時間を上手く利用して１日４時間、追い込み期は12時間以上がんばりました。）

≫大事なこと

ポジティブに！
ずっと勉強ばかりで心が折れることもあったのですが、同じ目標を持った仲間と励ましあえたこと、友達の存在は大きかったです。

≫アドバイス

やりたいことがみつからなくても、いろいろなことにチャレンジして触れて自分を再発見できたら将来やりたいことにつながると思います。人生に無駄はないかと思います。
そのために情報を見逃さないようにしてください。自分で探す、みつける。就職活動は期限があるから期限をすぎないように。ただ、公務員を目指すなら勉強が一番大事です。

≫目標

犯罪を未然に防ぐことを第一に、仕事をきちんと熟したいです。

西平 旺介 さん　Report.6

経法商学科［コザ高校出身／琉球銀行］

≫大学進学時の目標は

幼い頃からお金に関して詳しくなりたい、知識をつけたいと思って大学に進学しました。大学在学中に宅建、FP２級、証券外務員を取得、現在も簿記２級にチャレンジ中です。ゼミの先生（崔珉寧先生）からは本を読むことが大切だと教わり、仲間も勉強に熱心な人が多くて環境に恵まれたと思います。

≫就職活動を振り返って

通常より１年早く就職活動をスタート、２年生の２月頃から説明会に参加しました。ひとりで就職活動していて、迷いも出てきて就職支援課に相談しましたが、もっと早めに相談していたらよかったなと思います。面接対策、エントリーシートを見てもらってフィードバックいただき、自分の考えていることを、どうＰＲすればよいのか等対策をしてもらいました。

≫大事なこと

金融機関を志望するなら、まずはインターンシップに行き、人事の方に名前を覚えてもらうことが重要です。
そして自分の夢、目標を軸に就職活動を進めることです。「お金に困っている人を助けてあげたい、ひとり親世帯への援助や進学をあきらめないサポートをしたい」という気持ちが就職活動にも活きたと思います。

≫アドバイス

誘われたものはチャンスだと感じて、素直に受けてみてください。私はゼミ活動や入試広報室のイベント時のお手伝いなども関わることができ、良い経験になりました。いろんなことにチャレンジしているひとは魅力的に見えると思います。

≫目標

お金のことを子どもたちや地域の人へ教える活動をしたいです。社労士の資格取得も目指したいです。

**就職活動は十人十色かもしれませんが、情報を早い時期に得ることで、志望する職業に近づくのは間違いありません。
沖縄大学就職支援課では学生ひとりひとりにあわせた就職支援を行っています。「どんな企業があるの？」「自分に向いている職種とは？」、あなたの疑問に全力でサポートします。まずは就職支援課の窓口で気軽に相談してください。**

2024年度 沖縄大学卒業式・大学院修了式

3月 14 日、2024 年度 沖縄大学卒業式・大学院修了式を挙行し、学部生 489 名、大学院1名が学び舎を巣立ちました。
新型コロナウイルスの影響で入学時はリモート講義が主で、思い通りの学生生活のスタートとはいかなかった卒業生たち、その後、徐々に対面授業が再開され、学業だけでなく課外活動にも力をいれてきた学年でもあります。特別表彰では、個性豊かな学生たちの活動が評価され、個人8人と2団体に学長賞や嘉数昇記念賞等が贈られました。
山代寛学長は「コロナ禍を経験した世代ですが、困難な状況下でも学びを諦めず、自らの成長を目指した皆さんの努力に心から敬意を表します。多様性を尊重し、他者と共創できる社会人であること、そして地域社会への貢献を忘れずに常に学び続ける姿勢を大切にしてください」と卒業生たちへエールを贈りました。

総代

経法商学部
経法商学科
渡嘉敷 祥伍

人文学部
国際コミュニケーション学科
比嘉 琉空

人文学部
福祉文化学科
社会福祉専攻
東浜 るあ

人文学部
福祉文化学科
健康スポーツ福祉専攻
富永 真臣

人文学部
こども文化学科
仲地 聖羅

健康栄養学部
管理栄養学科
嶺井 真実

現代沖縄研究科
沖縄・東アジア
地域研究専攻
赤嶺 充

2024年度 卒業生・修了生特別表彰者

嘉数昇記念賞

軟式野球部

上地 輝虎・比嘉 崚平・宮平 永翔・山川 翔
島袋 義武・大城 澄士・城間 陸・知花 朝陽
中根 一道

軟式野球部は、3年連続で全国大会に出場し、2023年度の第46回全国大学軟式野球選手権大会では見事にベスト8に進出しました。また、学業と課外活動を両立させるだけでなく、学内のさまざまな行事にも積極的に貢献しました。

嘉数昇記念賞

管理栄養学科 ボランティアチーム

伊佐 木里・瀬名波 百梨　[管理栄養学科]

第42回沖縄県小児糖尿病サマーキャンプ（ハッピーサマークラブ）に学生ボランティアとして参加、医療スタッフと連携を取りながらリーダーシップを発揮し、1型糖尿病の理解を深め、患児たちに寄り添った活動を企画しました。

健康栄養学部長賞

與那 太陽

[管理栄養学科]

管理栄養学科子ども食堂サポートチーム等の学内ボランティアをはじめ、地域のイベントにも積極的に参加して、学内外の仲間と支え合い、社会貢献活動の企画・運営を行いました。全学共同研究と連携した卒研テーマ「ピィパーズを活かした商品開発」においても、その力を繋げて研究を深めました。

嘉数昇記念賞

平賀 麗奈

[経法商学科]

平賀さんは在学中に、日本インカレ陸上競技女子3000m障害の標準記録を突破し、九州学生陸上競技選手権大会で優勝、都道府県対抗駅伝へ沖縄県代表選手として出場するなど活躍しました。

人文学部長賞

多宇 諒真（右から2番目）

[国際コミュニケーション学科]

将来の目標に向かい勉学に励みながら 国際コミュニケーション学会の学生委員長として、学科をまとめるリーダーシップを発揮し誰からも頼られる存在として活躍しました。

新垣 里恵（右端）

[福祉文化学科]

資格取得や地域貢献活動に尽力、卒業論文では地域課題解決に向け、教育委員会の協力のもと、1000名以上に及ぶアンケート調査を実施し、その分析結果を基に地域の教育改善に貢献するための提案を行いました。

稲福 美香（左から2番目）

[こども文化学科]

高校時代から“医療的ケア児に関する本の寄付活動”に継続して取り組みその活動が多方面から高く評価されました。4年次では教員採用試験に見事合格しました。

学長特別賞

古波藏 好太郎

[国際コミュニケーション学科]

古波藏さんは本学の施設をVRで案内する仕組みの構築に携わり、イベント等での撮影・映像編集にも尽力、新入生歓迎スポーツ大会、オープンキャンパスやオフキャンパスオリエンテーションでは学生スタッフ、学祭では運営委員として活躍しました。講義の課題で制作した映像「全盲の空手家 ～父を見て感じるもの～」作品は、NHK、日本民間放送局と開催地自治体が共同で開催する「地方の時代」映画祭に出品され、映像のプロを養成する学校の参加も多々ある中、「市民・学生・自治体部門」にて「優秀賞」を受賞しました。

経法商学部長賞

親川 柚希 [経法商学科]

一貫して教員を目指し勉学に励み、難関とされる「中学校・社会」の教員採用試験に見事現役合格を果たしました。

大学院現代沖縄研究科長賞

兼城 夏芽 [大学院現代沖縄研究科]

優秀な成績で本学学部を3年間で卒業後、本学大学院に進学。学部時代は、自身の先祖のルーツを辿る研究を行い、学部紀要に2本の論文を投稿、修士論文では、自身の先祖が従事した琉球王国時代の国家プロジェクトについて研究しました。琉球史分野において解明されてこなかった空白部分を補填する重要な研究として高く評価されました。

第5回 わたしの先生、紹介します！

今回はこども文化学科の吉村壮明先生について、ゼミ生の座間味笑里さんに紹介してもらいます。

「吉村先生の経歴について」

吉村先生は、元々は公立中学校や国立大学附属中学校、高等学校の美術教員をされていました。大学教員になってからは造形教育や図画工作、美術教育、芸術論の講義を担当されたそうです。ゼミの活動中にぽろっと話してくれる吉村先生のこれまでの経験は、私たちゼミ生にとってはとても内容が濃く、その経験から沢山のことを教わっている私たちは幸せだなと感じています。

「吉村先生が教員をめざしたきっかけとは？」

吉村「僕が大学の教員になったきっかけは、高校教員時代、ある教育大学から助教採用の公募のお知らせがあったのが最初。自分が中学や高校で携わっていた「美術を教える」という営みを大学で教員志望の学生たちに教える仕事に就くということが具体化した経験でした。」

「それまでも中学高校教員として学会発表に参加していて、そこで研究していたことが繋がっていったということです。こうして振り返ると、大学院修士課程時代の先生には感謝しています。研究者志望として本を書く機会を最初にいただいたりしました。そう考えると理由は研究が好きだったということに尽きます。勿論、美術が好きだったのが根本ですが。」

「吉村先生が美術にハマったきっかけは？」

吉村「幼少期から好きだったようで、子ども部屋の壁にはクレヨンやマジックで自由に落書きをしていた記憶があります。漫画やアニメも好きだったかな。油絵を最初に描いたのが中学校の時で、なんと画集を見てダリやスーラの技法を模写していたんですよ。」

「美術って一言で言っても、実際は絵画や彫刻、デザイン、工芸という制作の分野があって、美術史や美学、美術教育という理論系の分野がありますが、この区分で言えば、最初は美術制作が好きでしたね。美術制作が好きだという素朴な関心から、なぜ好きなのかという疑問や探求に変わったのが美術教育を研究対象とする理由です。子ども論や芸術社会学、視覚文化論などを含むこの研究領域は面白いです。講義で話が広がって脱線しそうになるのも、そのせいかもしれません。」

「ゼミ生が思う吉村先生とは？」

吉村ゼミに在籍している3年次ゼミ生が思う吉村先生について、まとめてみました！

・ユーモアに溢れていて、色々な知識を持っていたり、周りを楽しませようとする気持ちが強かったり、とにかく面白い先生！

・リアクションがオーバーで、ゼミ生の好きなことにも興味津々で聞いてくれる！

・いつも学生の立場や目線に寄り添って、親身になって一緒に考えてくれるから、楽しさの共有も悩みの相談もしやすい先生！

などなど。私は吉村ゼミに入って3年目になりますが、吉村先生の魅力はまだまだたくさんあると思っています。ここだけでは語りきれないですね。

「ゼミでの活動内容」

私が現在所属している吉村ゼミでは、1年間のゼミ活動の内容を学生主体で決め、主にゼミ生が気になっていることや興味のあるもの、好きなもの、吉村先生がおすすめするものなどから、子どもとアートや文化全般の関りについて探求しています。例えば、大学のミニシアターでアニメーション映画を観て議論したり、県内外の美術館で展覧会の鑑賞をしたりしています。最近は、アジア現代美術展（福岡）やパウル・クレー展（名古屋）に足を運びました。これらの活動を通して私たちは「子どもの立場になって考える」ことを一番に意識して過ごしています。

「ゼミ生が印象に残っている活動や先生との思い出についての感想をご紹介します！」

・おすすめの本や漫画紹介をしたりする時間が楽しかった！

・1月のゼミ旅行の時、ゼミ生と同じくらいテンションが高くなった先生を見られたこと！

・先生を中心に、ゼミ生がそれぞれの好きなものをたくさん話し合う時間があったからこそ、先生とゼミ生の仲が深まった！

これから私たちは4年次になり、教育実習に向けて活動をしていきます。実習への不安は沢山ありますが、ユーモア溢れる楽しさ満点の吉村ゼミで頑張っていきたいと思います！これからの吉村ゼミ、吉村壮明先生の活躍にご期待ください！

卒業生の活躍を紹介！

あの人はいま

卒業生の活躍を紹介する企画「あの人はいま」。
今回は 2016 年度に本学福祉文化学科を卒業し、その後家業の陶芸家の道へと進まれ現在活躍中の**新垣優人さん**を紹介します。
新垣さんは再建中の首里城の正殿屋根に設置する鬼瓦製作にも取り組んでいます。

Q 現在のお仕事について教えてください

大学３年から、父のもとでシーサー作りを学び、卒業後は本格的にシーサーや龍などを作成しています。１週間で４匹のシーサーを作り、乾燥作業を１～２か月、そして１日焼くなどの作業をしています。

Q 大学時代について

高校時代は保育士になりたくて、高校では保育と福祉を学んでいました。福祉の楽しさにきづき、沖縄大学へ進学しました。福祉の仕事に就きたくて、大学1～2年の2年間、老人ホームでバイトをしていたのですが３年のときの実習を経験し、いろいろと考える機会があって、自分につとまるのかという葛藤が芽生えてきたんです。ちょうどその頃に父の作品（清水寺に奉納する龍）を見て、心が決まったという感じです。ビビっときて、かっこいいな、すごい仕事だなと感じて、父のようになりたい、一生の仕事にしたいと思いました。

Q すぐに思い通りの作品が作れたのですか、大変だったことなどはありましたか

絵が好きでしたが陶芸家としての才能はないと自分では思っていました。壁はありましたし、シーサーの顔が自分では気にいらないなと感じたり、もっとできるのではないかという葛藤はありました。でもどんどんのめり込んで、楽しくてという感じです。最初に作った作品もすぐにお客さんから購入したいと言ってもらえて、認められた気がしました。それからは、作品を購入したいと注文いただき、今は１年半待ちの状況です。

Q 夢や目標を教えてください

夢は自分がずっと気にいったもの、お客さんが気にいってくれるシーサーを作り続けたいです。そして亡くなる前に作ったものが一番の作品と評価いただけるよう、そこにピークがくるように、レベルアップをしていきたいです。

Q 沖縄大学の後輩へひとこと

大学の勉強をきちんと熟しながら、自分が好きなことを学生時代にみつけてください。

陶　歴

2018 年	第 70 回沖展入選
2019 年	第 71 回沖展
	うるま市長賞
	みんなの一点賞
2020 年	第 72 回沖展入選
2024 年	第 75 回沖展奨励賞

新垣光雄さん　新垣優人さん

師匠でもある父親の新垣光雄さんのコメント

福祉を学びたいと大学に進学したいと言ってきたときも、自分が好きなことをしてとは思っていました。押しつけても、はじまらないなと。でも大学３年次のときに、陶芸をやりたいと話をしてくれたときは、正直とても嬉しかったです。
なにを教えるということはなくて、みーなれーききなれー（目で見て耳で聞いて学ぶこと）です。すぐに良い作品を作っていたし、いまでは一流になっていますよ。お客様が息子の作品を褒めてくださるのは自分のものを褒められるよりもうれしいです。息子が加わったことで新しいテイストの作品も増えてきています。工房も空気が変わったといいますか、若い力、エネルギーがありますね。期待しています。

2024年度寄附金報告

2024 年4月1日から 2025 年3月 10 日までの間にいただいたご寄附について以下にご報告いたします。このご厚意を大切にし、有効に使わせていただきます。ご寄附をいただいた皆様に熱く御礼申し上げます。
総額　17,205,250 円（総額については、匿名希望者のご寄附も含めた金額です）（金額順・五十音順）

2024年度冠奨学金
（2023 年度 20 名に授与済み、寄附総額　7,000,000 円）

1	株式会社沖縄銀行	様	5口	1,750,000 円	4	沖縄電力株式会社	様	2口	700,000 円	4	公益財団法人 金秀青少年育成財団	様	1口	350,000 円
2	株式会社琉球銀行	様	5口	1,750,000 円	5	沖縄ビル管理株式会社	様	1口	350,000 円	5	e-no 株式会社	様	1口	350,000 円
3	株式会社沖縄海邦銀行	様	3口	1,050,000 円	6	株式会社琉信ハウジング	様	1口	350,000 円	6	沖縄大学教職員		1口	350,000 円

【法人・個人】

木村英紀 様	2,000,000 円
日本税理士会連合会 様	1,000,000 円
株式会社アールディ・フィー 様	200,000 円
株式会社マーキュリー 様	100,000 円
有限会社琉冷サービス 様	50,000 円
小畠宏 様	50,000 円
沖縄テクノクリート株式会社 様	30,000 円
整形外科てるクリニック 様	30,000 円
南洋土建株式会社 様	30,000 円
琉球海運　株式会社 様	30,000 円
仲村芳信 様	20,000 円
奥間邑明 様	10,000 円
玉城舞瑳子 様	10,000 円
仲村渠哲勝 様	10,000 円
仲村渠ジェニファー 様	10,000 円
毛利孝雄 様	10,000 円
粟国彰 様	5,000 円
石川丈正 様	5,000 円
大石直樹 様	5,000 円
大森潤之介 様	5,000 円
謝名孝雄 様	5,000 円
備瀬知晶 様	5,000 円
屋冨祖繁幸 様	5,000 円

【大学関係】

沖縄大学後援会	6,008,250 円
沖縄大学教職員	1,817,000 円
沖縄大学同窓会	500,000 円
沖縄大学支援同志会	255,000 円

問い合わせ先
メール：keiei@okinawa-u.ac.jp
ＦＡＸ：098-832-0083
〒902-8521
沖縄県那覇市字国場 555 番地
沖縄大学経営企画室 宛

沖縄大学への寄附について

ご支援いただける方は、ぜひ経営企画室までご連絡をお願いいたします。
※本学への寄附は、税額控除の対象となります

5,000 円以上のご寄附には返礼品の特典があります。本学ホームページをご確認ください！

琉球コラソンイベントのプロモーション

中山ゼミの活動紹介

福祉文化学科中山健二郎先生のゼミでは琉球コラソンと連携事業に取り組んでいて、若者を集客し、コラソンファンを増やし、盛り上げ、スポーツを通じた地域貢献を目的に頑張っています。学生たちは昨年の 12 月から打ち合わせを重ね、２月 23 日のホームゲームではキッチンカーの手配や営業サポートに奮闘していました。

４月 20 日にも、学生たち考案の試合イベントを企画していて、就職説明会を同時開催して集客を試みます。またキッチンカーに加え管理栄養学科の國仲小織先生のゼミ生が出店します。
(※沖縄大学は株式会社琉球コラソンと、地域社会への発展に寄与することを目的とした包括連携協力協定を結んでいます。)

ブース設営

パンフレットの封詰め作業

キッチンカーが到着すると・・・

書類を受け取り、確認作業

試合後には次回の
イベントを PR しました！